



古島一男社長

検品・補修・仕上げ
大手のファッションング
ロスフルシマ(埼玉県
羽生市・古島一男社長)
は、本社工場で手掛け
ている「再販加工」が
順調に伸びている。新
たに中古衣料に付加価
値を付けてリセールす
るための後加工業務も
開始する。一方、海外
事業では検品に加え、
CSR(企業の社会的
責任)監査事業、生産
支援事業を本格化し、
バンクアラデシユでは現
地の大手トレーディン
グカンパニーと合弁会
社を設立、日本のオー
ダーの営業と品質管理
をサポートする取り組
みを始めている。
再販加工は、海外生産
商品の国内検品が減少す
る中、国内工場の活性化

ファッションクロスフルシマ

＝国内の再販加工ビジネス＝

新たに中古衣料に後加工

として二〇一四年から開
始。テレビショッピング

ビスの返品商品を再販可
能な商品として再生させ
る。通販やECなどで販
売する商品は、サイズ違
いやイメージが合わない
などの理由で返品になる
ケースが少なくなく、試
着時に汚れが付いたりす
るため、検品・補修、仕
上げをして再度戻す作業
が必要になることに着目
した。

や定額制のファッション
サブスクリプションサー

くする。汚れにくくする。

ただではなく、透けにく
くする。汚れにくくする。

一つは海外における生

産管理システムと現地

工場監査の実務を担い、中
国、ASEAN、日本な
どで約一千件の実績を持
つ。サプライチェーンに
おける人権アセスメント
などの関心が高まり、
ノウハウを構築して
きたことから海外拠点
を中心に取り組む。

このほか海外ではフィ
リピンで縫製事業を行っ
ている。もともと検品で
進出したが、現地の縫製
工場を引き継ぎ、二〇一
八年からスタート。現在
百五十人の人員で日本向
けの通販商品やスポーツ
商品の生産している。日
本人管理者も常駐し、コ
ロナ明けに伴って事業を
本格化していく考えだ。
縫製キャバがひっ迫
し、同社のネットワーク
で工場の紹介を依頼され
るケースが増えている。

それが検品の仕事につな
がり、数量増加の一つの
要因にもなっている。古
島社長は「検品プラスア
ルフアの仕事が広がって
きた」と強調する。

同社が長く培ってきた
検品・補修・仕上げプレ
スのトータル技術と工場
内に設けたクリーニング
設備により再生率を高め、
A品として再販売が可能
な商品に仕上げる。数量
ベースでは前年比一〇％
以上の増加で、古島社長
は「ネット市場の広がり
もあるが、服を廃棄しな
いという意識の高まりも
あって国内の再販加工は
拡大している」と語る。
新たに取組むのは中
古衣料市場のリセール商
品が対象。単に補修する
だけでなく、透けにく
くする。汚れにくくする。

同社は中国をはじめ、
インド、バンクアラデシユ、
ベトナム、インドネシア、
カンボジア、ミャンマー、
フィリピンのASEAN
(東南アジア諸国連合)
・南アジアに検品拠点
のネットワークを設けて
いる。検品は前年に比べ
数量は増えてきたが、日
本のアパレル市場が縮小
し、生産数量が大きく拡
大しない中、競争が激し
くなると見る。このため
「検品プラス付加価値」
の業務を本格化してい
る。

生産管理システムと現地
生産支援をパッケージに
した仕組みを提供する。
その一環として昨年、
現地のトレーディングカ
ンパニーと合弁会社「フ
ルシマネット」を設立し
た。合弁相手の品質管理
をサポートする。すでに
昨年十月と今年四月の
ファッションショウワ
ールド東京に出展し、活
動をスタートしている。

同社は日本人駐在員に
おける人権アセスメント
などの関心が高まり、
ノウハウを構築して
きたことから海外拠点
を中心に取り組む。

このほか海外ではフィ
リピンで縫製事業を行っ
ている。もともと検品で
進出したが、現地の縫製
工場を引き継ぎ、二〇一
八年からスタート。現在
百五十人の人員で日本向
けの通販商品やスポーツ
商品の生産している。日
本人管理者も常駐し、コ
ロナ明けに伴って事業を
本格化していく考えだ。
縫製キャバがひっ迫
し、同社のネットワーク
で工場の紹介を依頼され
るケースが増えている。

それが検品の仕事につな
がり、数量増加の一つの
要因にもなっている。古
島社長は「検品プラスア
ルフアの仕事が広がって
きた」と強調する。

「お客様が困っていると
ころをサポートしていく
たい」と狙いを語る。
CSR監査事業は日本
人や現地弁護士と連携
し、同社のスタッフが監
査員として工場を訪問
し、現場確認、従業員へ
の聞き取りなどを行い、
報告書を作成する。これ
まで大手ユーザーの依
頼で工

バンングラで新規事業

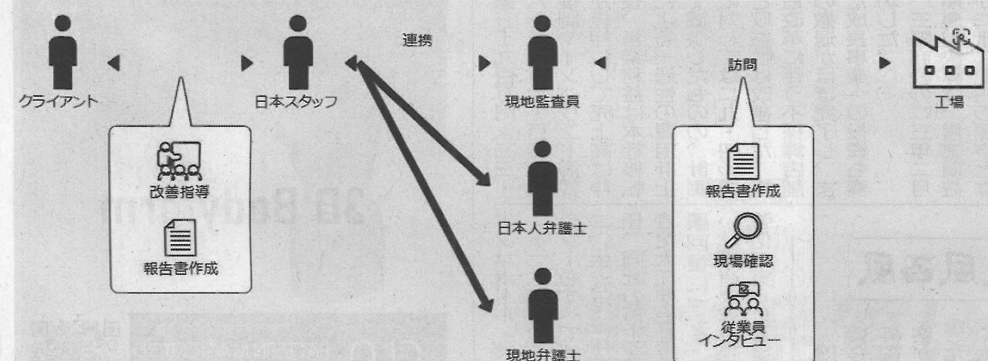
フルシマの中国・アジアの検品ネットワーク

現地企業の営業・生産支援

年四月のファッション
ショウワールド東京に出
展し、活動を開始してい
る。同社は日本人駐在
員における人権アセス
メントなどの関心が高
まり、ノウハウを構築
してきたことから海外
拠点を中心に取り組む。

このほか海外ではフィ
リピンで縫製事業を行
っている。もともと検
品で進出したが、現地
の縫製工場を引き継
ぎ、二〇一八年から
スタート。現在百五十
人の人員で日本向け
の通販商品やスポーツ
商品の生産している。

日本人管理者も常駐
し、コロナ明けに伴
って事業を本格化す
る考えだ。縫製キャ
バがひっ迫し、同
社のネットワーク
で工場の紹介を
依頼されるケース
が増えている。



ファッションクロスフルシマが取り組むCSR監査事業のイメージ